イベント報告

ゲリラ豪雨の霧ヶ峰

霧ヶ峰ロゲイニング　2013 年 7 月 7 日 長野県諏訪市

木村佳司

豪雨の合間に見せた霧ヶ峰高原の煌めき。コバイケソウの大群落。

スタートと同時にゲリラ豪雨。標高 1700m の厳しい天候に晒された参加者。

2013 年 7 月 7 日（日） 長野県諏訪市
霧ヶ峰ロゲイニング 2013

開催日の朝には晴れていたが・・

結果

5 時間家族		
1	親子亀	2127 点
2	ハムちゃん	1454 点
3	Team Heart Golds with TS	1416 点
5 時間混合		
1	チーム遠足	2113 点
2	チーム 299	1993 点
3	TEAM 阿闍梨	1944 点
5 時間混合シニア		
1	ゆきづまったり、くまったり	1719 点
2	チーム kryptonite	1624 点
3	コタロー	1534 点
5 時間女子		
1	2004 同期女子	1613 点
2	team みなみ	1429 点
3	ゆるなびちゃんず	1038 点
5 時間男子		
1	A-TeamID	2757 点
2	マッパ	2478 点
3	TECNICA&札幌農学校	2354 点
5 時間男子シニア		
1	早実 OCOB 会	1912 点
2	ES 関東 C ロゲイン部シニア	1561 点
3 時間家族		
1	おさんぽファミリー	757 点
2	駿遼	682 点
3	チーム T･Y･H	623 点
3 時間混合		
1	アイス食べたい	1156 点
2	木酔会 も	1139 点
3	みえさんと愉快な下僕たち	1104 点
3 時間混合シニア		
1	コッコクラブ	791 点
2	バナナクラブ	751 点
3 時間女子		
1	チーム一重	810 点
2	池田組	658 点
3	あらばしり隊	614 点
3 時間男子		
1	やまへい	1117 点
2	ファーストサーモン(400g)	844 点
3	まるやん	734 点
3 時間ソロ女子		
1	久山千春	1044 点
2	清谷千鶴	1028 点
3	二俣みな子	922 点
3 時間ソロ女子シニア		
1	森下久美子	684 点
2	遠山由貴江	642 点
3	近藤香織	628 点
3 時間ソロ男子		
1	許田重治	1550 点
2	田所真之	1542 点
3	篠原岳夫	1416 点
3 時間ソロ男子シニア		
1	阿部昌隆	1341 点
2	遠山敏幸	1269 点
3	大橋晴彦	1188 点

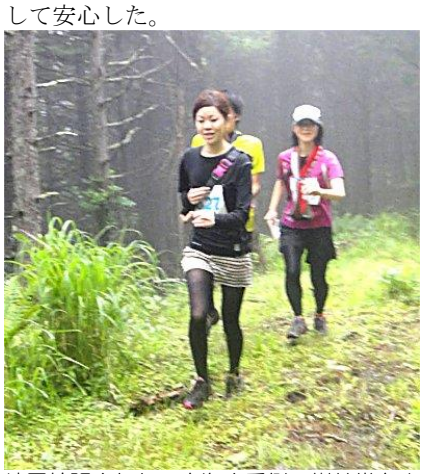
梅雨明け宣言なんて

350 名の参加者が野に放たれたレース直後から霧ケ峰は激しい雨に見舞われた。梅雨時期特有のゲリラ豪雨だ。周囲はたちまちホワイトアウトし視界が利かなくなった。体感気温もどんどん下がり、参加者の低体温症が心配された。

2013 年 7 月 7 日朝、気象庁は中部地方から関東南部に梅雨明け宣言を出し、熱中症に警戒をよびかけた。だが標高 1700m の現場は「そんなの関係ねぇ」状況だ。この時点でいくつかのチームは競技を中止し帰還した。

霧のまぼろし

1 時間の激しい雨のあと、雲間から光が差し込む天気となった。冷たい雨を耐え忍んだ参加者を迎えたのは、霧と光と草原が織り成す美しい風景。長い梅雨の季節が過ぎ去り急速に夏へと駆け抜ける瞬間にだけ見せる霧ケ峰のまぼろしだった。「雨もまた楽しかった」と語る参加者は多く、主催者としてちょっと救われた気分だ。全員無事帰還して安心した。



地図拡張された日本海水系側の樹林帯をゆく参加者。快適な林道が続く。

巨大滑り台

今年の霧ケ峰ロゲイニングのハイライトは、新規に拡張した地図範囲である。霧ケ峰ロゲイニングのテレインは太平洋と日本海を分ける中央分水嶺に位置するが、昨年まで利用していたテレインの水はすべて太平洋へと注いでいる。しかし今年新規に拡張したエリアの水は日本海へと注ぐ。この新規範

囲を加えることで、より戦略性の高いロゲイニング競技を提供することだった。

中央分水嶺から日本海水系側に一気に急降下すると大草原の風景が一変し、しっとりとしたカラマツと白樺の林になる。だがゲリラ豪雨のおかげで道が巨大滑り台と化してしまったようだ。お尻をつきながら下る。滑ってなかなか登れない。レース後の参加者の話題もここに集中した。

巨大滑り台と化した笹の登山道

流れた表彰式

「霧ケ峰はE-cardを使用していて競技終了後すぐに結果が出る。」これが霧ケ峰のウリだったが、今回は集計トラブルですぐに結果が出せなかった。そればかりか帰還者のデータ読み込みにも時間がかかり、データ読込列に人が溢れる状態となった。結局、速報も出せずに表彰式もできずに解散。競技終了後に再来したゲリラ豪雨がトドメを刺した。会場が一時期水没するほどの雨量だ。

その後天気は急速に回復。夕方には夏空と入道雲が現れ、本当に梅雨明けした。

霧ヶ峰ロゲイニングに集まる参加者
そろそろ受け入れキャパシティの
上限に達している

曲がり角に来た霧ケ峰

2008年から6回続けてきた霧ケ峰ロゲイニング。今回の運営を終えてそろそろターニングポイントにきているなという感想を持った。運営を仕掛ける私（木村）のモチベーションは「霧ケ峰ロゲイニングは常に変わり続けること」である。今までは競技やテレインを充実させてゆくことが「変わり続けること」であった。しかし大会の形態自体を模索し、変わり続けたいと思っている。

受入側の変化

主催者である諏訪市オリエンテーリング協会で変化があった。

長年、諏訪市協会の会長を務め、霧ケ峰ロゲイニングの実現に力を注いで下さった三澤氏が高齢のために会長を退いた。三澤氏は今まで霧ケ峰を中心に地図を拡充し、隣接市まで巻き込みたいという意思をもって事業にあたってきた。これが霧ケ峰の競技エリアを茅野市、下諏訪町、立科町へと広げ、5時間競技を O-map 品質で提供できた原動力だった。新会長のもと、今後も霧ケ峰イベントは行われるが、従来のようなテレインの拡大路線はひとまずお休みとなるだろう。

参加者の帰りを待つ会場では、極上のトン汁が準備される。毎年、このトン汁作成に加わってくれていた諏訪市協会の年配女性が今年は一人居なかった。この大会前日にこの世を去ったのだ。会場テントの片隅に写真が置かれ、大会を見守っていた。

このように年とともに受け入れる側の体制も変わっている。

フィニッシュに向けて走るロゲイニングの帝王こと柳下。市岡氏と組み、ダントツの得点を叩きだす。
撮影：同じ５時間混合の「小梅チーム」

高原観光地の変化

霧ケ峰ロゲイニングを開始した2008年には会場付近には5軒のホテルや旅館が営業していた。それが5年の間に3軒にまで減少している。霧ケ峰ロゲイニングは地元旅館組合が行う「花祭り」の一環として行われているが、その屋台骨となる「花祭り」の土台が揺らいでいるのだ。霧ケ峰ロゲイニングが地元旅館組合を少しでも支えるような仕組みを作ってゆかなければ、ロゲイニングを開催できなくなる日がくる。霧ケ峰高原はロゲイニングとの相性がよいフィールドだ。ロゲイニングが霧ケ峰を代表するアクティビティのひとつとなり地元経済に貢献できれば、末永く霧ケ峰でロゲイニングを楽しむ道を開くことができる。

適正参加者数

過去6回の霧ケ峰ロゲイニングの中で今回は最大の参加者356名を記録した。そんな大会で今回が一番激しい天候だった。標高2000mに達しようかという山の天気の中で、参加者の安全をどのように確保するかが課題だ。はたして主催者側の体制は充分だろうか？突然のゲリラ豪雨に混じって落雷まで至った場合まで想定できているだろうか。

さらに今回発生したような運営系のトラブルも今後再発する可能性がある。E-cardによるチェックでは、マシントラブルが発生すると、未帰還者確認ができない。そうなった場合でも356名の参加者の安全を確保できるだろうか。

アウトドアイベントでの適正人数は200人。これは私が日ごろから思っている数字だ。霧ケ峰もこれに当てはまるだろう。会場のキャパシティ、フィールドのキャパシティである。

今回の350名という参加者数は少々欲張りすぎたと思っている。今後の霧ケ峰ロゲイニングは参加者数200名くらいのイベントにしてゆくのが良いだろうと思っている。しかし参加者数はそのまま運営の会計に直結する。人数を絞りながらも無理のない会計収入を維持することは、イベントとして継続する上で必要である。そうなると参加費は値上げせざるを得ないことになるだろう。

ロゲイニング開催数の増加

霧ケ峰ロゲイニングが始まった2008年。日本にはまだ数えるほどのロゲイニング大会しかなかった。それがこの5年の間に人気急上昇し、大会数は増大した。大会同士の日程が重なったり、日程調整が必要なほどになった。そんな日本のロゲイニングシーンの中で霧ケ峰の立ち位置を再定義する必要があるだろう。

2008年にJOAのシリーズ戦初年度の第一戦として始まった霧ケ峰ロゲイニング。霧ヶ峰はこれからも変わり続けてゆきたい。

（木村佳司）